

新たな価値創造を目指し進化を続ける神戸港



神戸港航路附帯施設基礎工事(第5工区)



神戸港は、日本列島のほぼ中心に位置し、世界の海運のメインルート上にあることから、多くの国際定期航路網を持ち、世界各地の港と結ばれている。また、物流以外にもウォーターフロント整備も行われ、地域住民に親しまれている。

本工事は、神戸港のさらなる総合的な国際競争力強化を図る事業の内、物流ターミナルとなる埋立地の基礎捨石、被覆・根固め等を施工する工事である。

施工位置



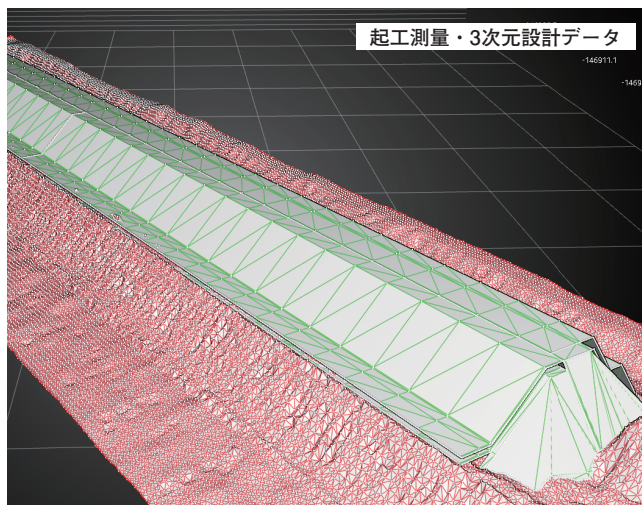
工事概要

工事名	神戸港航路附帯施設基礎工事(第5工区)
工事場所	神戸市東灘区向洋町中9丁目地先
工期	令和4年7月29日～令和5年7月7日
発注者	国土交通省 近畿地方整備局 神戸港湾事務所
施工者	五洋・株木 特定建設工事共同企業体
工事内容	基礎工 基礎捨石59,241m ³ 捨石本均し2,575m ² 雑石2,557m ² 被覆・根固工 被覆石7,550m ³ 被覆均し10,829m ² 被覆ブロック製作(8t型)272個 裏込・裏埋工 防砂シート7,477m ² 裏込材13,148m ³ 雑工 被覆ブロック仮置き(8t型)272個 仮設工 敷鉄板設置・撤去1式 安全対策1式

施工状況



起工測量・3次元設計データ



担当者の声

本工事は、起工測量から施工及び工事完成図や施工管理の記録等について、3次元データを活用するICT活用工事でした。近年、標準となっていますが私自身にとって初めての経験であり、情報化施工についての勉強をしながらの施工管理となりました。また、本工事現場は、陸地から離れており、従来の測量方法では効率的かつ精度良く施工管理することが困難でした。そこで、GNSSを利用したICTシステムを導入し、位置出し・出来形測定・石材投入管理を行いました。これらの対策により、施工効率・施工精度ともに向上することができ、発注者から高い評価をいただくことができました。

港湾工事は、朝が早く、夏は日差しを遮る影が無いので暑く、冬は寒風に晒され寒く、とても厳しい環境でした。しかし、使用船舶機械の一つ一つの規模が大きく、ビッグプロジェクトに携わっているという充実感他他の工事では味わったことの無いものでした。この経験を活かし、海上工事管理技術者認定試験に合格した暁には、次回は私自身が指揮を執り、港湾工事のビッグプロジェクトに参加したいです。

